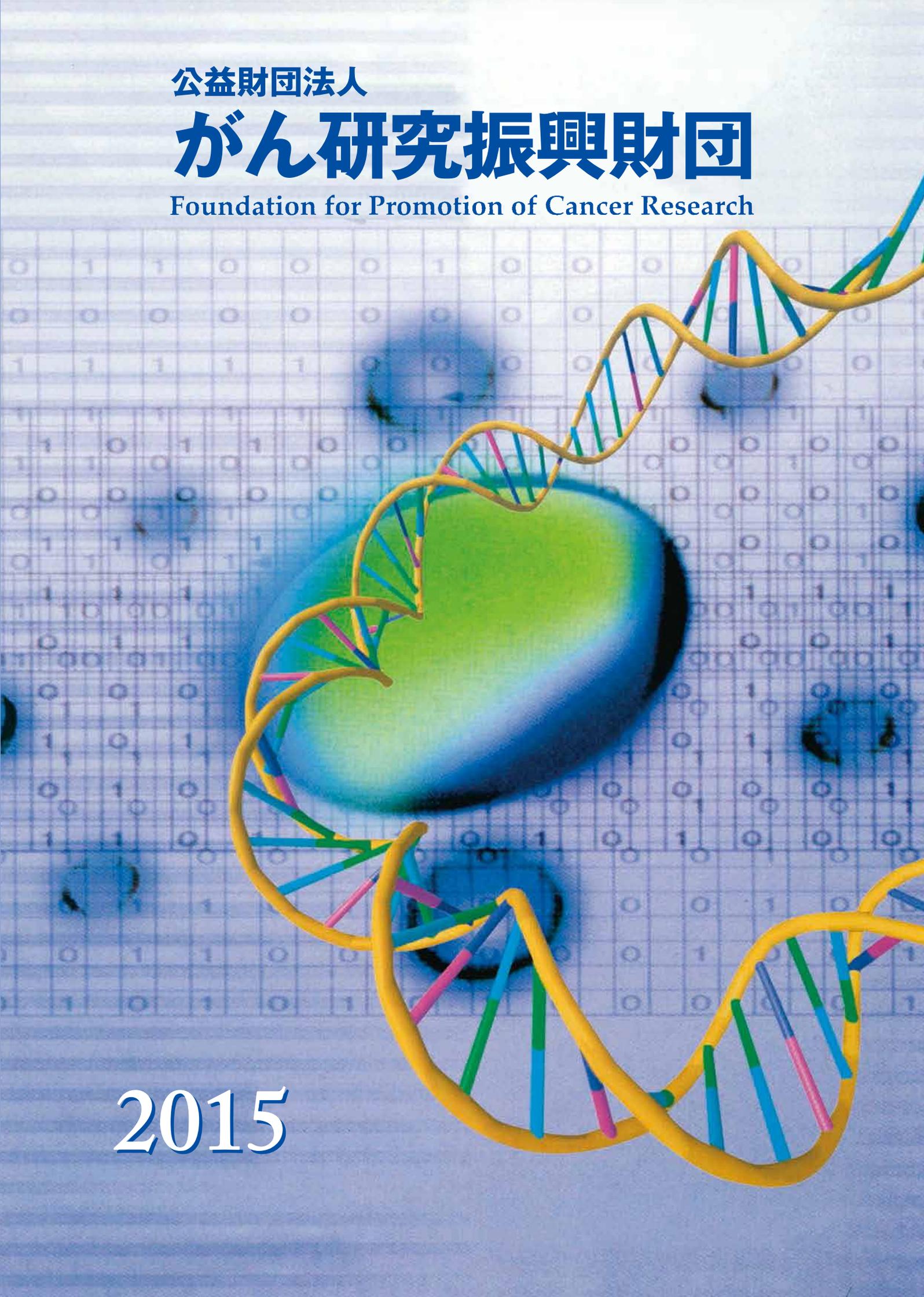


公益財団法人

がん研究振興財団

Foundation for Promotion of Cancer Research

2015



がん研究振興財団の概要

当財団は、がんの征圧に対する国民の強い願いにより、昭和43年9月設立された「財団法人がん研究振興会」が母体で、多くの皆様から寄せられた浄財をもとに、がん研究者への助成などの事業を行ってきました。

昭和59年度からは、時の政府の「対がん10か年総合戦略」の実施に伴い、昭和59年3月、名称を「財団法人がん研究振興財団」と改め、更に平成24年4月には公益認定を受け、「公益財団法人がん研究振興財団」となり今日に至っています。

この間「対がん10か年総合戦略」（昭和59年度～平成5年度）、「がん克服新10か年戦略」（平成6年度～平成15年度）、更には平成16年度からスタートした「第3次対がん10か年総合戦略」まで30年間の対がん戦略研究における推進事業の運営を行ってまいりました。

また、平成26年度からは、新たな「がん研究10か年戦略」がスタートし、「革新的がん医療実用化研究推進事業」の運営を行ってまいりました。

「がん研究の推進」については、今日まで官民あがての取り組みにより、多くの成果をあげてきましたが、3人に1人ががんで亡くなっている現状や、生涯で2人に1人ががんに罹るとも推計される時代を迎えていることを考えますと、がん撲滅に向けての課題はまだ多く残されています。

このため、当財団はこれまで以上に、幅広くがん研究支援事業を推進して参ります。

沿革

昭和43年9月 厚生省の認可団体「財団法人がん研究振興会」として発足
昭和59年3月 寄附行為の改正により「財団法人がん研究振興財団」に名称変更
平成24年4月 公益財団法人に移行

目的

本財団は、がんに関する研究の推進を図るため研究助成を奨励するとともに、その成果を国民に還元・普及を図り、もってがんの予防・診断・治療に寄与することを目的としている。

事業内容

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力
- (6) その他本財団の目的を達成するために必要な事業

政府によるがん研究推進の主なあゆみ

S59.4～

対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

戦略目標「がんの本態解明を図る」

- ① ヒトがん遺伝子
- ② ウイルスによるヒト発がん
- ③ 発がん促進とその抑制
- ④ 新しい早期診断技術の開発
- ⑤ 新しい理論による治療法の開発
- ⑥ 免疫の制御機能および制御物質

H6.4～

がん克服新10か年戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

「がんの本態解明から克服へ」

- ① 発がんの分子機構
- ② 転移・浸潤およびがん細胞の特性
- ③ がん体質と免疫
- ④ がん予防
- ⑤ 新しい診断技術の開発
- ⑥ 新しい治療法の開発
- ⑦ がん患者のQOL

H16.4～

第3次対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部科学省)

「がんの罹患率と死亡率の激減」

- ① がんの本態解明
- ② 基礎研究の成果の予防・診断・治療への応用
- ③ 革新的ながん予防・診断・治療法の開発
- ④ がん予防の推進による生産がん罹患率の低減
- ⑤ がん医療の均てん化

H18.8 がん対策基本法 成立

H19.4 がん対策基本法 施行

H19.6 がん対策推進基本計画 閣議決定

H24.6 がん対策推進基本計画(第二期)閣議決定

S26.4～

がん研究10か年戦略 (厚生労働省、文部科学省、経済産業省)

「根治・予防・共生～患者・社会と協働するがん研究～」

- ① がんの本態解明
- ② アンメットメディカルニーズに応える新規薬剤開発
- ③ 患者に優しい新規医療技術開発
- ④ 新たな標準治療
- ⑤ ライフステージやがんの特性に着目した重点研究領域
 1. 小児がん
 2. 高齢者のがん
 3. 難治性がん
 4. 希少がん等
- ⑥ がんの予防法や早期発見手法
- ⑦ 充実したサバイバーシップと実現する社会の構築
- ⑧ がん対策の効果的な推進と評価

H26.3 がん研究10か年戦略

(厚生労働大臣、文部科学大臣、経済産業大臣確認)

人類共通の悲願である

■ 外国人研究者の招へい

(1)(2)

諸外国の第一線の優秀な研究者を招へいし、わが国の研究者とともに国際共同研究を実施。

■ 「対がん 10 年総合戦略」実績 単位：人

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	計
招へい数	13	32	37	45	48	29	47	39	34	27	351

■ 「がん克服新 10 年戦略」実績 単位：人

年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	計
招へい数	15	25	26	21	48	31	39	26	26	25	282



■ 「第3次対がん 10 年総合戦略」実績

単位：人

年度	国別	アメリカ	トルコ	中国	ロシア	オーストラリア	モンゴル	ウクライナ	イギリス	韓国	ドイツ	ハンガリー	イタリア	タイ	ポーランド	インド	オーストリア	シンガポール	イスラエル	パキスタン	ベトナム	フランス	ネパール	インドネシア	フィリピン	スウェーデン	台湾	計
2004		7	3	2	1	1	1	1	3	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
2005		4	1	3	1	-	-	-	3	4	-	-	-	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	
2006		3	1	2	-	-	1	1	3	2	2	1	-	7	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	30	
2007		8	-	2	-	-	-	1	1	1	1	1	-	3	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	21	
2008		4	-	6	-	-	-	-	-	4	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	22	
2009		1	-	1	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7		
2010		-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	7	
2011		2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	6	
2012		1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	
2013		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

■ 「がん研究 10 年戦略」実績

(革新的がん医療実用化研究推進事業)

年度	中国	計
2014	1	1

■ レクチャーシップの開催

(1)(2)

世界のがん研究をリードする優秀な研究者を招き、国際がん研究講演会（レクチャーシップ）を開催。

■ 「対がん 10 年総合戦略」実績

年度	招へい研究者
1984 ~ 1993	アメリカ ○ポール・A・マークス博士 他 25 名 フランス ○ロレンソ・トマティス博士 他 1 名 スウェーデン ○クライス・ラメル博士 他 1 名 イギリス ○サー・ウオルター・ボドマー博士 西ドイツ ○ハラルド・ツール・ハウゼン博士 オランダ ○ポール・H・M・ローマン博士 他 2 名 ソ連 ○ニコライ・N・トラベツニコフ博士 オーストラリア ○A・J・マクマイケル博士



■ 「がん克服新 10 年戦略」実績

年度	招へい研究者
1994 ~ 2003	アメリカ ○リチャード・H・アダムソン博士 他 12 名 フランス ○ジルバール・ド・マシア博士 スウェーデン ○アンダーズ・ゼッターバーグ博士 イギリス ○テランス・H・ラビッツ博士 ドイツ ○マンフレッド・F・ラジェウスキー博士 他 1 名 フィンランド ○カリ・アリアタ博士 スイス ○ロジャーワイル博士 オーストラリア ○ロルフ・シュルート・ハルマン博士 他 1 名 カナダ ○アラン・バーンスタイン博士 中国 ○ゾアン・ユーホイ博士 韓国 ○ジェガブ・パーク博士

■ 「第3次対がん 10 年総合戦略」実績

年度	招へい研究者
2004 ~ 2009	ドイツ ○カリ・ヘミンキ博士 アメリカ ○スーザン・バンド・ホーウィッツ博士 アメリカ ○アーサー・リッグス博士 アメリカ ○バーネット・クレマー博士 アメリカ ○カルロ・クロチェ博士 アメリカ ○ローレンス・マーネット博士 アメリカ ○ジョン・シラー博士

がんの制圧を目指し

■ 国際がん研究シンポジウムの開催 (2)

世界の著名ながん研究者を招いて日本人研究者とのシンポジウムを開催。

■ 「対がん 10 年総合戦略」実績

年 度	テーマ
1987	肺がんの基礎と臨床
1988	肝臓がんの基礎と臨床
1989	多重がんの基礎と臨床
1990	尿路性器がんの基礎と臨床
1991	膵・胆道がんの基礎と臨床
1992	食道がんの基礎と臨床
1993	肺がんの基礎と臨床

■ 「がん克服新 10 年戦略」実績

年 度	テーマ
1994	大腸がんの基礎と臨床
1995	脳腫瘍の基礎と臨床
1996	頭頸部がんの基礎と臨床
1997	胃がんの基礎と臨床
1998	乳がんの基礎と臨床
1999	がん検診—過去・現状・未来—
2000	がん性疼痛治療、緩和医療と精神腫瘍学—現状と将来の展望—
2001	血液腫瘍の診断と治療の最近の進歩
2002	膵臓がんの基礎と臨床—最近の進歩—
2003	胃がんの基礎と臨床—最近の進歩—

■ 「第3次対がん 10 年総合戦略」実績

年 度	テーマ
2004	前立腺がんをめぐる課題と挑戦
2005	感染、がんと予防
2006	がん根治手術後の生理学的変化と QOL
2007	最近の放射線腫瘍学：技術の進歩と臨床導入への研究
2009	頭頸部・食道がんの基礎と臨床—最近の進歩—
2010	科学の発展を乳癌治療へ—新たなる挑戦—
2011	悪性脳腫瘍—現状と展望—
2012	放射線とがん
2013	世界のがん研究は今—次期対がん戦略に向けた課題—

■ 「がん研究 10 年戦略」実績

(革新的がん医療実用化研究推進事業)

2014	希少がん：望ましい医療・研究体制を探る
------	---------------------



■ がん研究費の助成 (1)

がん治療の新分野開拓のための優秀な研究に対して、毎年「がん研究助成審議会」の審査を経て研究助成金を進呈。平成26年度（第47回）は、24名の方々に助成。（平成22年度からはコメディカルも対象）

一般課題 A	(100 万円)	11 名
一般課題 B	(50 万円)	10 名
特定課題	(200 万円)	3 名

■ 国際がん看護セミナーの開催 (2)(3)

がん患者とその家族を支える看護・医療の向上を図るための、国内外のがん看護関係者とのセミナー。

年 度	テーマ
2000	がん看護の実践力の向上をめざして
2001	がん看護領域の教育と実践
2002	がんと向き合う人を支える
2003	がんと向き合う人を支える part II
2004	がん患者の自律を目指して
2005	これからのがん看護
2006	これからのがん看護 part II
2007	変革するがん看護
2008	変革するがん看護 part II
2009	がん医療における外来看護に求められる役割 part I
2010	がん医療における外来看護に求められる役割 part II
2011	がん医療における継続したがん看護の充実 part I
2012	がん医療における継続したがん看護の充実 part II
2013	高齢者のがん“その人らしさを支えるがん看護と研究”～アジアの国々から～

■ 「がん研究 10 年戦略」実績

(革新的がん医療実用化研究推進事業)

2014	がん医療の質向上を担うがん看護の「現在」と「発展の 10 年後」を問う
------	-------------------------------------



■ 市民公開講演会の開催 (3)(4)

研究成果等を発表

年 度	テーマ
2008	がん撲滅を目指して
2009	がん撲滅に向けた新たな挑戦—これからのがん研究の若き担い手へのメッセージ—
2010	がん撲滅に向けた新たな挑戦—がん研究の明日を担う方々へ—
2011	がん克服に向けた新たな挑戦—がん研究の明日を担う方々へ—
2012	がん克服に向けた新たな挑戦—がん研究はがん医療の未来へ繋ぐ—
2013	発がん機序からがん予防まで—研究成果と課題—

■ 「がん研究 10 年戦略」実績

(革新的がん医療実用化研究推進事業)

2014	がん研究と市民社会～高齢者がんとサバイバーシップ～
------	---------------------------



■ がん予防展・講演会の開催

がん研究の現状とがん治療・予防等の最新の情報を国民に広く伝える予防展や講演会を開催して、がんに関する正しい知識・予防法などの普及。
(財) (JKA 自転車補助事業)

■ 「対がん 10 カ年総合戦略」実績

年度	開催会場数等
1987～1993	会場数：78 参加総数：399,055 人

■ 「がん克服新 10 か年戦略」実績

年度	開催会場数等
1994～2003	会場数：77 参加総数：248,519 人

■ 「第3次対がん 10 か年総合戦略」実績

年度	テーマ
2004	我孫子市 等 8 会場 参加総数：16,640 人
2005	北九州市 等 14 会場 参加総数：44,595 人
2006	札幌市 等 12 会場 参加総数：89,400 人
2007	宮崎市 等 12 会場 参加総数：122,840 人
2008	鹿児島市 等 12 会場 参加総数：83,050 人
2009	甲府市 等 12 会場 参加総数：142,500 人

■ 広報活動

一般の人々にも理解できるがん研究に関する最新情報、日常生活の中で実行できるがん予防法の知識などについて、パンフレット、カレンダーなどにして配布し、正しいがん知識の普及とがん研究者等への資料提供。
(日本宝くじ協会助成事業 他)

■ 「対がん 10 カ年総合戦略」

年度	事業内容
1985～1993	がんを防ぐための 12 カ条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 対がん戦略 PR ポスター、カレンダー がんの統計 16 ミリ映画 「がんに挑む」・「がんから身を守るポイント」の作成



■ 国際研究交流会館の管理運営

(6)

昭和60年8月に完成した国際研究交流会館は、がん研究が国際的な規模で進められるようになった今日、世界の国々の研究者との討論や講演の場としての役割。



(1)(2)(3)

■ 「がん克服新 10 か年戦略」

年度	事業内容
1994～2003	がんを防ぐための 12 カ条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか (総論篇、肺がん篇、胃がん篇) カレンダー、ポスター (がん克服戦略 PR 用、禁煙指導用) がんの統計

■ 「第3次対がん 10 か年総合戦略」

年度	事業内容
2004～2010	がんを防ぐための 12 カ条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか 乳がん・肝がん・大腸がん・外来抗がん剤治療・子宮がん・前立腺がん・放射線療法・がんと食事・卵巣がん・食道がん・膵臓がん・緩和ケア・がんのおはなし・がんと暮らし・口腔がん・子どものがん がんを防ぐための新 12 カ条 がんの統計の作成・配布ほか
2011～2013	予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」 早期発見で治そう「乳がん」 「たばこ」がいらぬ、これだけの理由。

■ 「がん研究 10 か年戦略」実績

(革新的がん医療実用化研究推進事業)

年度	事業内容
2014	予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」「肺がん」 みんなで考えよう「乳がん」 やさしいがんの知識「胃がん」 がんを防ぐための新 12 カ条シリーズ①「喫煙とがん」②「飲酒とがん」 ③「食事とがん」

がんを防ぐための **新** 12か条

あなたのライフスタイルをチェック
そして今日からチェンジ!!!

- 1 条 たばこは吸わない
- 2 条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 3 条 お酒はほどほどに
- 4 条 バランスのとれた食生活を
- 5 条 塩辛い食品は控えめに
- 6 条 野菜や果物は不足にならないように
- 7 条 適度に運動
- 8 条 適切な体重維持
- 9 条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10 条 定期的ながん検診を
- 11 条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
- 12 条 正しいがん情報でがんを知ることから

発行 公益財団法人 がん研究振興財団
〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内
TEL. 03-3543-0332 ホームページ <http://www.fpcr.or.jp/>

がんを防ぐための **新** 12か条

自分へ家族へ。
予防は思いやり。



公益財団法人 **がん研究振興財団**
Foundation for Promotion of Cancer Research



公益財団法人 **がん研究振興財団**

Foundation for Promotion of Cancer Research

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 国際研究交流会館内
TEL 03-3543-0332 FAX 03-3546-7826 E-mail:info@fpcr.or.jp
ホームページ : <http://www.fpcr.or.jp>